

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500959		
法人名	医療法人聡仁会		
事業所名	グループホームさかい1F 大地		
所在地	岐阜県各務原市蘇原沢上町2丁目43番地		
自己評価作成日	平成21年9月4日	評価結果市町村受理日	平成21年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500959&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方と関わりを持ち生活できるよう 地域交流委員会を設置し 地域の活動に参加し 地元の人との交流に力を入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2005年の開設以来、一貫して介護職員の常勤雇用70%以上の確保を實踐、現在常勤者12名の内6名が介護福祉士の国家資格を有し、5年以上の経験者9名という万全な体制を築き昼夜の支援が行われている。長年地域医療を手がけてきた医療法人を母体とし、入居後も地域との関わりが延長線上にあるよう自然な形で続けられている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(1F大地)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの在り方、ご利用者様への対応等日常的に話をしている。また その人らしい生活ができるように援助している。グループホーム内に理念を掲示し 毎朝申し送り時 唱和し確認している。	玄関ホールにも地域と共々の理念が掲げてあり、管理者はじめ職員は、地域密着の意義を深く理解し、日々の業務の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣ケアや自治会の訪問がある。近所のお友達が遊びに来られる。ボランティアハウスや地域行事への参加をしている。月に1回公園の草取りを行っている。夏祭りの実施。地域交流委員会の設置。	いきいきサロンへの定期的な参加、日常的な近隣者の訪問、ボランティアの受け入れ、自治会長との密接なつながり等を通じて、ホームは孤立することなく、しっかりと地域の中に根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の日(11月11日)に地域の方を対象に勉強会を開き 認知症の早期発見の大切さや病気への理解について話をしている。中学生の職場体験・実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご利用者様の状況・サービス提供状況・現状の実態等を報告し 意見を頂きミーティングやカンファレンスに取り上げサービスの向上に活かしている。	運営推進会議への出席は家族、地域代表者、近隣サポーター、行政関係者など多彩で、議題、情報交換も豊富であり、活発な意見交換がされ、サービスの向上につなげている。ただ、利用者の参加がみられない。	さらには、主である利用者の参加を、今後、検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村に行ったり電話をかけ 担当者との交流を持ち 現場やご利用者様の課題解決のために支援を受けている。	日頃から市担当者と相談や確認を行い、業務が円滑に行えるよう電話等でも相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容とその弊害を認識し 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない時はご家族様に説明し同意書にサインを頂いている。	現在のところ、ホームでの身体拘束はない。身体拘束の弊害については職員が深く理解し、熟知した取り組みを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングなどを実施し 職員に高齢者虐待防止法に関する理解の浸透に努めている。		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業 成年後見制度の理解に努め 必要と考えられるご利用者様がそれらを活用するための話し合いや関係機関への橋渡しを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時 ご家族様に施設内を見学していただいた上で利用料金・医療連携体制の実際・看取りの対応について 時間を取り丁寧に説明し同意を得ようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様からの意見・苦情は速やかに対応し改善に努めている。第三者の苦情委員の依頼・CS委員会や苦情箱の設置を行っている。ご利用者様やご家族様の意見・要望を反映させている。	家族の訪問時には管理者であるケアマネジャーが対応し、状況報告を行い、家族の意向を把握するよう心がけている。また、自治会長が、電話による相談窓口として登録されており、その内容については運営推進会議等で反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会を月1回以上行い意見を聞き話し合いの場所を設けている。職員の意見・要望・提案を聞くよう心がけている。	管理者は毎月のミーティング、会議及び年2回の個人面接を実施している。そこから出る職員の思い、意見、要望、提案を受け止め、実践できるものから反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員の面接を行い 職員の悩みや要望・疑問を聞き 向上心を持って働けるよう配慮・対応を行っている。5年勤続者・10年勤続者には金一封と表彰状などを与え評価をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的なミーティングや研修委員会を設置し勉強会を行い職員の意欲向上に努めている。事業所外で行われる研修には全職員が参加できるよう研修計画を立て実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会の交流会や研修などを通して同業者と交流・意見交換する機会を持ち サービスに反映させるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご利用者様に会って心身の状態やご利用者様の思いに向き合い 意向や困っていることを聞きだし 職員がご利用者様に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議や面会に来られたときにご家族の要望や困っていることを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにより必要なサービスを早急に抽出し ご利用者様の思い 状況などの確認し 改善に向けた支援の提供をしている。必要に応じ福祉用具の使用や医療面での支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に自分の野菜を植え 育てる楽しみや収穫の喜びを味わっていただいている。人生の先輩としてお話を伺う姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られたときは 日々の暮らしの出来事や気づきを報告し情報の共有に努め ご利用者様と一緒に支えるため同じ思いで支援している。面会に来られないご家族様には電話をかけ報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の馴染みの場所への散歩・イベント参加・知人や友人への電話や手紙の取り持ちなどを行い つながりを継続する援助を行っている。	近隣の利用者が多く、入居後も在宅生活と延長線上の近所付き合いや地域ボランティア活動の受け入れなど、関係継続支援が日常的に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席の位置を気の合う人となるよう配慮している。毎日食事時間は職員も一緒にとり会話を楽しむようにしている。レクリエーションを通じご利用者様同士の関係が円滑になるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に電話をかけ様子を伺ったり 入院時はお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情からその真意を察し それとなく確認するようにしている。意思の疎通の困難な方には ご家族様などから情報を得ようとしている。	本人の気持ちを大切に、日頃の何気ないくさや言葉から意向を汲み取るなど利用者のペースで無理のない支援を心がけている。また、家族との会話を沢山持つようにし、充足した意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしのシートを活用し 日々の話の中で以前の生活を把握し ご利用者様自身の語りや ご家族様の面会時に少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や生活のリズム(食事・睡眠・排泄時間・生活習慣など)を把握し その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様には日頃の関りの中で 思いや意見を聞き反映させるようしている。アセスメントも含め職員全体で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。	居室担当を決め、きめ細かな状態把握を行っている。毎月のグループミーティングで利用者の状況を話し合い、全体の意見を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の個別記録・情報を共有している。プランの見直しやミーティングでそれを生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能をいかして自宅で暮らす認知症のご利用者様に 自宅での生活が限界になった時に 馴染みの職員がいる馴染みの環境への穏やかな住み替えの支援を行っている。		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し 自治会長・民生委員・近隣ケアの方の意見を頂いたり ボランティア・学校などの慰問など地域の協力を受け支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回かかりつけ医が訪問し定期往診を行っている。特変ある場合はDRに連絡し指示を受けている。また 受診や通院はご利用者様やご家族様の希望に応じて対応している。	利用者全員が母体の医療法人をかかりつけ医としており、身近な医療支援が受けられている。他科への受診は基本的には家族が付き添うが、必要時には職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関より 朝・夕2回看護師の訪問あり。常にご利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は 介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には 本人の支援方法に関する情報提供を行い 入院中はソーシャルワーカーと連絡を取ったり 見舞うようにしている。また 家族と情報交換をしながら 退院援助に結び付けていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や希望時 看取りに関しての同意書を取っている。その都度 主治医より説明しご利用者様やご家族様の意向を確認しながら対応方針の共有を図っていく。	重度化や終末期は、利用者・家族の意向を確認しながら、常に柔軟で丁寧な対応を方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し対処できるようにしている。急変の場合は併設のクリニックに連絡し医師・看護師の往診を受け 応急手当の指示をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練を行い 避難経路・消火器の使い方などの確認を行っている。避難マニュアルを作成し運営推進会議にて地域からの協力をお願いしている。	夜間を想定した避難訓練も法人内の他施設と連携を図り実践している。また、地域の協力体制を運営推進会議で取り上げるなど理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員に説明し個人情報の誓約書を取り意識の向上に努めている。ご利用者様のプライドやプライバシーを尊重した対応を心がけている。	職員は研修の機会や、ミーティング、誓約書等により意識の向上を図り、日常の支援に生かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に会った声掛けを行う。意思の疎通の困難な方には表情や動作・行動で要求を読み取るようにしている。本人に伝える方法を考えなるべく自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩など一人ひとりの状態や思いを配慮しながら 職員配置が許される限り柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝 洗面所や居室にてヘアーチェックを職員が手伝っている。近所の美容院から出張ボランティアに来ていただき 定期的に散髪を行い身だしなみを整えている。髭剃りや爪切りも入浴時に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にお盆拭きをお願いしたり おやつ作り一緒にやって頂き楽しみを作っている。また 職員と一緒に食事を摂る事でアットホームな雰囲気を作れている。	職員は利用者と同じテーブルで食事を摂り、さりげない会話の中で食事を楽しむ工夫がされている。また、おやつは手作りを基本とし、利用者とともに用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立をたて提供している。水分量や食量はチェックし定期的な体重測定などを行い健康状態・栄養状態を管理している。ご利用者様の嗜好・咀嚼・嚥下に合わせて 軟らかさや刻み方を変え食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの援助で 自力でできる人は見守り できない人は職員が介助している。夕食後は義歯を預かり 消毒をし保管している。歯痛の訴えもキャッチし 受診に結び付けている。		

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し 尿意のないご利用者様にも時間を見計らって誘導することにより トイレ排泄ができるよう支援している。	排尿サイクルを把握し、トイレ誘導を基本にした個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるため 乳酸菌飲料の飲用・麦ご飯を提供したり 食材の工夫を行っている。排便チェック表をつけ排便リズムを把握し 看護師・医師に報告 個々にあった下剤の服用の指示が出されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴であるが ご利用者様の意思を尊重し 状況に応じて曜日や時間帯の希望に応じている。	一日おきに、午後の時間帯で、1対1の支援を受けながら、利用者はゆったりとした入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し 生活のリズムを整えるように努めている。また 個人の就寝時間のリズムを考え 好きな時間に入床していただくよう支援している。不眠の方は医師に報告し処方していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と薬が配布され 看護師の説明を受け それぞれの服用管理を任せられているので指示通りに援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の個性を尊重し 囲碁や将棋をしたりご家族様への手紙が書けるよう見守り援助をしている。 四季を感じ昔を思い出していただくよう季節にあったイベントを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く穏やかな日はご利用者様の希望に応じて外出している。定期的なイベントの計画をして近くの市民公園にでかけている。	利用者の身体状況、精神的な状態に応じて地域に出かける積極的な外出支援が行われている。ただ、家族に外出支援の状況が充分伝わっていない。	外出支援の状況を家族に伝え、満足感と理解を得るよう検討されたい。

岐阜県 グループホームさかい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様やご家族様の希望に合わせてお金を所持して頂いている。ご家族様よりお小遣いを預かり 外出時など利用者様がお金を払う機会をもつようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の方からの依頼がある時にはそれに応じ電話の使用 手紙の投函などの支援を行っている。ご利用者様の中には 携帯電話を持っている方もおり利用の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が気持ちよく過ごされるように清潔に心がけ温度・湿度チェックをしながら室温の設定をしている。また 季節感を感じていただくよう季節に合った飾りつけを行っている。	共用の空間は、十分なスペースが確保され、安全と清潔面に配慮がされている。トイレには、全身が映る鏡の設置や明るい洗面所など心配りや工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の個性を配慮した席作りをしている。テレビの前にソファを置き ご利用者様同士がコミュニケーションをとりやすいようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願いして ご利用様にとって昔懐かしいものを持ってきてもらい 使用して頂いている。また 写真などを飾り 家族を真近に感じていただくよう配慮している。	本人、家族主体の下、部屋作りは自宅の生活と違和感のないよう、馴染みの家具の持ち込みや飾り付けがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ出来る部分 出来ない部分の把握を職員が周知することで利用者様の混乱や失敗を防いでいる。		